

愛のメッセージを歌に託して

橋本 恵子さん
(西所沢在住)

いとしいわが子に捧げる歌は月の光浴び やさしく揺れる小鳥も花も 夢を見ているあなたを包む やさしい歌を

「マリオの子守り歌より」いつかどこかで聞いたクラシックの名曲に乗せて、やさしい愛の言葉が人々をやすらぎの世界へと導きます。

橋本恵子さんは、「Ark」のステージで、パソコンやCDの制作などの活動を行っています。

小さいころから歌うことが大好きで、大阪音楽大学院オペラ科を卒業後オボエ、ミュージカルの舞台でさまざまな役を演じました。20代からは、オーディションやコンクールで実績をつかみながら、精神的にも成長してまいりましたが、今は、「内から響く歌」や音自分なりの言葉で伝え、人とのふれあいを大切にしたい」と歌に対する思いを話してくれました。

橋本さんは、兵庫県宝塚市で育ちましたが、阪神淡路大震災で故郷を失ってしまいました。



所沢での生活は、4年目になります。住み心地も良くて、第二の故郷」と考えています。中でも航空記念公園はお気に入りのすてきな緑の木陰で生まれることもあります。

橋本さんは、深い呼吸の中で音楽を聴くことで、疲れた体や心を開放する「リーディングセラピー」をコンサートに取り入れています。

老人ホームへの慰問の際に、90歳の痴ほうのお年寄りが歌声に反応して、拍手をしてくれたそうです。「音楽の無限の可能性を感じました。1人でも多くの人に寄り添う中で幸福を感じて欲しい」と話す橋本さん。「セリメント」の一面も感じました。

娘さんが生まれてからは、親子のきずなを深くききとるようになったそうです。

これからは、地域でのかわりも大切に、所沢で「マサリスコンサート」や「タニヤコンサート」も実現してみたいと夢を語ってくれました。

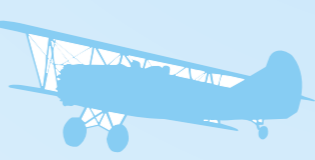
皆さんに「ステーション」の音も近いかも知れません。

はっぴーところざわ 野老っ子



▲一摘みずつ丁寧に摘み取ります。市民の皆さんによる茶摘み体験も行われた「ところざわ新茶まつり」。4月22日(木)・北野地区・茶畑

みんなの 広場



街かど スマイル

▶皆さんからの「街かどスマイル」情報を募集▶採用者には事前に連絡します▶「誰でもエッセイ」ではテーマにそった投稿を募集▶はがきに300字以内▶文章は添削あり▶掲載者には記念品を進呈▶次回のテーマは「時間」▶時間は皆平等に過ぎていきます▶それでも楽しいときは早く過ぎ、つらいときは長く感じます▶皆さんの時間まつわるエピソードをお寄せください▶締め切りは6月7日(月)必着▶住所・氏名・年齢・電話番号を明記▶送り先：〒359-8501・並木1-1-1 所沢市役所秘書広報課「みんなの広場」係



▲近くの畑では、かれんな「はなびし草」が見ごろを迎え、新鮮な地元野菜の直売も行われました。5月1日(土)・埋蔵文化財調査センター南側の畑

TOKOROZAWA 50 ものしり ウォーキング

山口・所沢緋のこと

所沢織物の起源は、はっきりしません。もともと自給自足の生活の中で行われていた機織りが、次第に農家の副業となり、発展して産地が形成されました。

所沢織物の機織りの歴史を知ることでできる施設が、市内山口の山口民俗資料館です。ここでは、織物生産を飛躍的に発展させた高機と呼ばれる機織り機や、それ以前に使われた地機(下機ともいふ)など、機織りにかわる道具類が数多く展示されています。

山口地区は、昭和初期の貯水池建設で湖底に沈んだ勝楽寺村をはじめとして、市内で最も盛んな織物産地でした。



山口民俗資料館



資料館に展示された機織り機

所沢織物の中でも特徴的なものが紺緋です。はじめは村山地方現東村山市や東大和市などで織られ、やがて狭山丘陵の北側に伝えられていきました。村山地方で織られた紺緋を村山紺といいますが、所沢に集荷されたため、村山紺も所沢紺と呼びました。

ところで、紺は「飛白」とも書きます。明治・大正期はこの字がよく使われ、所沢でも「所沢飛白」という商標で販売されました。「飛白」の由来については、中国の書体の「飛白体」をあてたものと考えられています。飛白体は、筆跡が掠れた書体であることから、紺緋模様は、まさに「ヒタリ」だったのではないのでしょうか。

明治時代は、普及する布地として所沢時代に急速に普及し、明治39年に生産量がピークを迎えます。しかしその後は、洋装の普及や量産地の勢いに押され、また山口貯水池建設を契機とした機織り農家の激減などにより、昭和初期に終息を余儀なくされました。

現在、山口民俗資料館では有志の人たちにより所沢紺の復元が行われています。興味のある方は一度訪ねてみてください。

山口民俗資料館
所在地 山口1-590-10
電話 29222-2004
開館日/開館時間 毎月第1・3日曜日/第2・4木曜日/午前8時30分~午後5時

所沢は、かつて綿織物の一大産地でした。幕末から明治・大正期に紺緋や綿などが盛んに織られ、「所沢織物」として全国に流通しました。

所沢織物の中でも特徴的なものが紺緋です。はじめは村山地方現東村山市や東大和市などで織られ、やがて狭山丘陵の北側に伝えられていきました。村山地方で織られた紺緋を村山紺といいますが、所沢に集荷されたため、村山紺も所沢紺と呼びました。

ところで、紺は「飛白」とも書きます。明治・大正期はこの字がよく使われ、所沢でも「所沢飛白」という商標で販売されました。「飛白」の由来については、中国の書体の「飛白体」をあてたものと考えられています。飛白体は、筆跡が掠れた書体であることから、紺緋模様は、まさに「ヒタリ」だったのではないのでしょうか。

明治時代は、普及する布地として所沢時代に急速に普及し、明治39年に生産量がピークを迎えます。しかしその後は、洋装の普及や量産地の勢いに押され、また山口貯水池建設を契機とした機織り農家の激減などにより、昭和初期に終息を余儀なくされました。

現在、山口民俗資料館では有志の人たちにより所沢紺の復元が行われています。興味のある方は一度訪ねてみてください。

山口民俗資料館
所在地 山口1-590-10
電話 29222-2004
開館日/開館時間 毎月第1・3日曜日/第2・4木曜日/午前8時30分~午後5時

ふれあい館 『エコ回』不用品ガイド

- 譲ります ▶ベビーベッド▶ビデオデッキ▶電子オルガン▶クローハン(赤ちゃんを寝かせるためのかこ)▶鍵盤ハーモニカ▶フォークギター▶ピアノカバー
- 求めます ミシン▶ノートパソコン▶ワープロ▶双子用ベビーカー▶電子ピアノ▶テレビ▶油絵道具▶物置

◎登録翌月の初旬に内容を館内に展示しています。このほかにも多数登録されていますので、ぜひご利用ください。

受付方法 リサイクルふれあい館へお問い合わせください。

休館日 月曜日、祝休日
申し込み・問い合わせ リサイクルふれあい館 ☎2994-5374・FAX2994-1118



▲素朴な山野草の懸命に咲く姿に、愛らしさを感じます。「手もみ茶実演会と春の山野草展」。5月9日(日)/中富民俗資料館

とことこ 町内会 めぐり

エステシティ自治会は富岡地区の東の端に位置します。古くは元禄時代に川越城主の柳沢吉保が開拓した上富村(三芳町)、中富村、下富村の三富開拓地の一角にあります。

パブル期のはじめ、ススキ野原の土地に新興住宅地が開発されました。その後、中富南という町名となり、昭和62年10月にエステシティ自治会が発足しました。現在、会員世帯数は約1,150世帯です。

【エステシティ自治会】 ~自治会活動はパワフルに~



夏祭りに参加したたくさんのお子さんたち

パブル期のはじめ、ススキ野原の土地に新興住宅地が開発されました。その後、中富南という町名となり、昭和62年10月にエステシティ自治会が発足しました。現在、会員世帯数は約1,150世帯です。

西には、日大芸術学部の美しいキャンパスがあり、芸術の息吹も感じられます。春には、小鳥がさえずり、秋には、さまざまな虫の鳴き声がハーモニ

一を奏で、紅葉が街を彩ります。また、街路では日大芸術学部の芸術家のタマゴたちが、自作映画を制作している風景にも出会えるのどかな街です。

一方、自治会活動は非常にパワフルで、恒例の夏祭りやスポーツ大会に懸命に奔走する中で、生活環境問題等、数々の難問にも積極果敢に取り組んでいます。最近では特に空き巣被害が目立つため、防犯にも力を入れています。

関係機関に交番設置を要望する等、住民が一体となって安全で安心な街づくりに努めています。

次回のテーマは「時間」です

厳しい採点 若狭・井上 美恵子

ある日、友人と南国国技館へ相撲を見に行った。彼女いわく「さすが相撲の町ね。『横綱町』があるわ」と言った。案内板を見ると『横綱町』ではなく、『横綱町』で、彼女ほど間違いに気づいた。その瞬間、中学校の英語のテストのことを思い出した。テストの結果は、99点。よく見ると日本語の訳に「綱」と書いたつもりが、「綱」になっていた。国語の漢字テストではないので、そんなに厳しくしなくてもいいのに不満だった。

今にして思えば、テストの結果より、2度と間違えないようにという先生の考えが、マイナス1点に含まれていたのです。「綱」の文字を目にするたびに先生

救急士 東狭山ヶ丘・伊藤 みつ子

まだ夜の明けぬ早朝に、電話のベルで起された。仲良しの友人から、夜中に体の変調を来して苦しんでいると、助けを求められた。私は「119番を呼んで」と電話口で叫んでいた。駆けつけたときには、すでに救急士が私を待っていた。救急士は直ぐに連絡を取り、病院へと直行し、手際よく対応していた。その間、私はなす術もなく、長い目で待っていた。救急士は、診察室から出てきて、帰りに「お大事に」と言っていて立ち去った。

後ろ姿がとも大きく見えた。任務を終えた安どを表した笑み。このときほど彼らを頼もしく感じたことはなかった。

無事の真意を教えてください 林・木田 雅雄

最近では、思わぬ災難にあう人が多い。おれおれ詐欺やひったくり等の犯罪が起きて、安心して生活することが出来ない。高校生とき、女性の先輩に、「茶道の世界では、年末に無事を重んじる」という考えがあると教わった。

病気になるったり、苦しみを感じたりしたときは、救われることをだれも祈る。しかし、無事に過すためには、日々いろいろな努力を怠ることなく過すことが重要であり、その結果として年末に何も起こらないありがたさを味わうという無事の真意を教えてください先輩は、今でも私にとって、「ここに残る人なので。

誰でも エッセイ

テーマ ところに残る人

励ましの言葉をくれた人 並木・横須賀 みどり

教育実習のとき、お世話になったM先生。たった2週間だったのに、先生と話したこと、今でも昨日のことのように心にみがかえてきます。最後の日、涙でうまくあいさつがでない私に、「教師にむいているよ、頑張らない」と声をかけてくれました。

初めて学校の仕事に就いたとき、つまずくたびに、先生の言葉が、心の奥深くから湧き出てきて、ピンチを救ってくれました。

出会ったときからかなりの年月が過ぎたのに、色あせることなく、いつまでも励まし続けてくれていました。

優しさを教えてくれた人 下安松・川北 肇

「すみません。背中流してくれませんか。突然こう言われた。時は戦後のある屋下ガリの銭湯のことである。

「見も知らぬ人間に失礼な」とムツツきたが、断る勇気もなく、黙って「すみません。今度は僕が流しますよ。」その人は、私の後ろに回り、優しく私の背中を洗い続けた。私は恥ずかしさでいっぱいになった。

「すみません。もう一度洗わせてください。私は今度は、静かに真心を込めて洗い続けた。

その人の名は知らない。もう顔の記憶も定かたではない。しかし、私に大事なことを教えてくれた忘れられない人である。